

27年度 小山町立きたごうこども園学校評価「自己評価書」

1 教育目標

園目標 「富士のもと のびやかにあそぶ子」
 かんがえる子 やさしい子 たくましい子

2 重点目標及び具現の方策

- 重点目標 「自分らしさを発揮し、仲間と共に育ち合う子の育成」
- 具体的方策
- ・保育者、子ども、保護者のより良い関係を創り、温かさのある教育・保育、安心できる場の構築をする。
 - ・幼児一人一人の発達を捉え、幼児が共に育ち合うための援助の工夫をする。
 - ・職員一人一人が保育に対する課題を明確にもち、創意ある保育実践を展開するための研修の充実を図る。
 - ・こども園・小学校・中学校との連携を密にした一貫研修の推進をする。
 - ・職員の「こども園の文化を創り出す」という意識の向上。

3 項目別評価

評価項目	項目別評価	評価の理由	教職員アンケート結果	保護者アンケート結果
教育課程	B		B	B
保育指導	B	見通しをもった保育や環境作り、個々の発達を踏まえた指導が課題である。	B	B
保健管理	B	一人一人の健康状態を把握するには職員間の連携が必要。	B	B
安全管理	B		B	B
特別支援教育	B		B	
組織運営・情報管理	B	職員間の共通理解を多くするための方法を検討していく。	B	B
研修	B		B	
教育目標・学校評価	B	保護者への啓蒙のしかたを検討することが大切。	B	B
情報提供	B		B	B
保護者・地域との連携	B		B	B
子育て支援	B		A	B
施設・設備	B		B	B

(注) 1 評価表示方法「A：十分達成されている、B：達成されている、C：取り組まれているが、成果が十分ではない、D：取組が不十分である」

2 「教職員アンケート結果」及び「保護者アンケート結果」は、項目別評価用アンケートを集計したものである。

- 3 「項目別評価」は、「教職員による評価」及び「保護者による評価」をもとに、教職員で話しあって決定したものである。

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
職員の共通理解のための話し合い【園内研修・打合せ】	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの話し合いを充実させる。 (1～2週間に1回) 保育の反省、個々の発達についての協議 ・3～5歳児の話し合いを増やす。 行事等の打ち合わせ ・掲示板を利用して周知する。
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを中心に各クラスの気になる子についてのかかわり方を考えていく。また、園全体の子を把握していけるような話し合いの仕方を考えていく。 ・職員一人一人が各年齢の発達をしっかり理解し、個々に合った支援をしていけるよう研鑽を積んでいく。
安全管理 【子どもの怪我への対応】	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットを点検し、学年ごとに話し合いをもち、怪我のしやすい場所、時間帯、曜日を把握する。 ・縦・横の連携を密にする。(報・連・相の必要性を周知する。)
保護者理解への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・園目標や幼児期に必要なこと(5領域等)をおたよりや参観日などを利用して知らせていく。 ・行事等の写真を作成し、掲示板で園生活の一端を知らせる。また、保護者とのコミュニケーションを大切にしていく。 ・保健だよりを作成し、保護者に周知していく。

5 評価全体を通して

- ・評価を行い、保護者への周知が不足している項目がはっきりしたので、今後の課題として考えていきたい。
- ・特別支援教育は、なのはな相談、巡回相談、教育支援委員会の前だけに取り組んでいるように思えるので、毎月話し合いが出来るように考えていく必要がある。
- ・子どもの怪我が多い。ヒヤリハットを記入していても細かい分析ができていない。また、戸外遊びの時などは特に職員間の連携が大切である。
- ・園全員で話し合える時間が取れず、職員間の共通理解に欠けるところがある。園内研修の方法を考えていくことも課題の一つである。